

第6学年 算数科学習指導略案

- 1 単元名 図形の拡大と縮小
- 2 本時の目標 プログラミングによって図形の拡大図や縮図をかく活動を通して、その性質への理解を深めるとともに、コンピュータのよさに気付くことができる。
- 3 本時の展開 (8/11)

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具等
見通す	1復習	個別 ↓ 一斉	○定規やコンパスを使って、拡大図と縮図をかく。	・かき方の手順を交流し、辺の長さに着目することを確認する。	ワークシート
	2問題把握	一斉	○問題文を読み、本時の課題を捉える。	・定規やコンパスを使って作図するときとコンピュータを使って作図するときでは、どちらが作図しやすいかを予想させる。	
	3めあての確認	一斉	○めあてを確認する。		
つなげる	拡大図や縮図をかくプログラムをつくろう。				
	4見通し	一斉	○問題文やプログラムから分かることをワークシートに書き出す。	・プログラムからスプライトの動きをイメージさせる。 ・イベントのブロックやプログラムをつくる位置などについて確認する。	
	5自力思考	個別	○三角形の拡大図と縮図をかくプログラムを作成する。		
	6集団解決	グループ ↓ 一斉	○プログラムについて交流する。	・プログラムの内容だけでなく、定規やコンパスを使ってかいた時と比較して考えたことも話し合わせる。 ・スプライトの歩数の数値に目をつけることに気付かせる。	
	ひろげる	7本時のまとめ	一斉	○今日の学習で一番大切だと思ったことについて交流する。	・コンピュータで作図するときは、角度の数値は変えずに、辺の長さ(歩数)に着目することを押さえる。
		8練習問題	個別	○正八角形の拡大図をかくプログラムを作成する。	
		9振り返り	個別	○振り返りをまとめる。	・できたことやできなかったことについては、その要因まで考えさせるようにする。

4 本時の評価 (評価観点) < 評価方法 >

- ・ 図形の拡大図や縮図の性質への理解を深めている。
- ・ プログラミングによって拡大図や縮図を作図するよさに気付いている。

(数学的な考え方) < ワークシート・発言・行動観察 >